



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

令和3年2月 第11号

校長 阿久津 光生

〒114-0004

東京都北区堀船 2-23-20

Tel 03-3911-8817

《新年最初の全校集会は放送で行いました》

放送による全校集会での新年の校長挨拶を掲載いたします。

「みなさん、明けましておめでとうございます。今年も、よろしくお祈りします。今日の全校集会は、みなさんの元気な姿を見ることができなくて非常に残念です。

みなさんもすでに承知のように、新型コロナウイルス対策で、昨日政府から緊急事態宣言が発令されました。これを受けて、東京都、北区から今後の教育活動について方針が示されます。三密を避けながらやっと通常の授業や部活動などができるようになったのに、新年早々、皆さんには制限や自粛をお願いすることになってしまいました。

私がみなさんと同じぐらいの年の頃には、部活動がない時は自由に校庭で遊んだり、野山を駆けずり回ったりしていました。その分、今のみなさんの状況は本当に気の毒でなりません。まだまだ辛抱の日が続きますが、みなさんの健康と安全のためにぜひご協力をよろしくお祈りします。

いよいよ今日から二学期の後半が始まります。また、それぞれの学年の締めくくりをする大切な時期でもあります。新しい年を迎え、目標と決意を持って一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。特に三年生は、卒業後の進路を決定しなければならない時期です。高校等への受験は一人一人が乗り越えるものではありませんが、同時に、みんなで力を合わせて乗り切るものでもあります。学級や学年の仲間と一緒に頑張るから自分も頑張れるのだと思います。お互いに支え合って、中学校最後の試練を力強く乗り越えていってほしいと心から願っています。

一・二年生も、いよいよ学年のまとめと振り返りの時期になりました。この時期に最も大切なことは、「努力をする自分になること」だと私は思います。一日一日の体や頭の成長は自分ではなかなか気がつきませんが、毎日毎日の努力が自分を作っていきます。自分がやったことは、目に見えることも目に見えないことも含めて、自分に還ってきます。努力とは、「目標を成し遂げるため自分の力を出して、努め励むこと」です。自分で立てた目標や計画が実行できるよう、今年も努力していきましょう。

今年、丑年です。牛の一步一步はゆっくりでも、決して弱音を吐かず、我慢強く前へ前へと進んでいきます。コロナ禍の中、大変な時代ではありますが、我々も、そんな年にしていきましょう。そして令和3年という年が、堀船中学校の生徒・教職員全員が健康で幸せな、良い年になることを願っています。以上で新年のあいさつを終わります」

《緊急事態宣言発令に伴う学校行事を変更しました》

1/16	2年	防災教室	中止
1/19	2年	校外学習(鎌倉)	3月23日(火)に延期
1/20	1年	校外学習(横浜)	3月24日(水)に延期
1/27~29		あいさつ運動	中止

感染状況により再度の変更・中止も予想されます。その際には文書またはメール、ホームページ等でお知らせいたします。学校では、施設内の消毒の徹底等、環境整備に万全を期して参ります。

※部活動は当面の間活動停止

《表彰》

◎バスケットボール部 1年生大会

堀船・成立チーム 男女ともに優勝

優秀選手賞 1年生 議波くん

◎校内書き初め展 金賞受賞者

1年生 林(欣)さん・小池さん

2年生 菅(妃)さん・笠井くん

3年生 平野さん・石田さん



おめでとうございます。これからも頑張ってください。

渋沢栄一の生き方（2）

1 倒幕から幕臣へ

文久4（1864）年、栄一は京都に来てはみたものの、生計を立てるめどがついていませんでした。そこで、かねてより懇意にしていた一橋家の重臣、平岡円四郎の誘いをうけて、一橋慶喜（後の15代将軍徳川慶喜）に仕官することになりました。栄一は、農民から武士になったのです。そして、当主である一橋慶喜への謁見を平岡に頼みこみ、土下座しながらも遠慮なく意見を述べました。「徳川家とともに一橋家が共倒れしないために、幕府を倒そうとしている者を集めて一橋家に集めれば、いずれ天下を治めることができます」と栄一は提案します。慶喜は意外にもこの意見に賛成しました。慶喜の意を受けた栄一は、江戸と一橋家の領地内を歩き回り、歩兵増強のための募兵で成果を出しました。さらには、一橋家の財政危機の改革を担当し、酒屋に年貢米を酒米として大量に売りさばいて多くの利益をあげたり、白木綿や火薬のもととなる硝酸を売るなどの新しい事業を行うことで、一橋家の財政再建に大きく貢献しました。

このように栄一が一橋家における地位を確実なものとしていく中、慶應2（1866）年、当主の一橋慶喜は徳川15代将軍となりました。栄一は幕臣に取り立てられ、陸軍奉行支配調役という陸軍奉行の書記官の役目を与えられました。



武士になった渋沢栄一
渋沢史料館所蔵

2 ヨーロッパへ派遣

慶應3（1867）年、栄一は、第15代将軍徳川慶喜の弟、徳川昭武（14歳）に随行して、ナポレオン3世が主催するフランス・パリの世界大博覧会を観覧しました。このヨーロッパ滞在中に栄一は、ちょんまげを切り、洋装に変え、議会、取引所、銀行、会社、織物工場や機械工場、病院、上下水道、ガス灯、鉄の馬（鉄道）や海運業などを見学しました。進んだヨーロッパ文明やそれを可能にする資本主義のシステムに驚くとともに、身分差のない平等な社会に感銘を受けました。栄一の印象に特に強く残ったことは3つあったようです。

1つ目は、ベルギー国王レオポルト2世に謁見した際、日本はベルギーの鉄を使ってはどうかと国王が自ら商売に関与していること。

2つ目は、商工業者と軍人という民と官が尊卑や上下の感覚なく接していること。

3つ目は、銀行の仕組みを学んだり、株式と公債を体験したこと。ブルース（証券取引所）で政府公債と鉄道社債を買い入れた際に、栄一自身も鉄道社債で大金を得ることができたこと。

このヨーロッパ視察が、栄一の人生を大きく変えていくこととなります。



シルクハット姿の栄一（渋沢史料館所蔵）



パリ万博幕府使節団一行（渋沢史料館所蔵）

渋沢史料館様から貴重な写真のご提供をいただきました。誠にありがとうございました。記して感謝申し上げます。